

## ワークス

「村絵図・公文書を使って地域の歴史を調べてみよう！」

## 公文書レポート

金次郎像の建設  
～宮城県の場合～

## 知っ得！情報

### 昭和初期の上沼八幡神社の写真と境内見取図

（「昭和五年 社寺 神社 神社昇格関係」【S5-81】）

公文書に収められているのは県庁業務に関する事務文書（文字情報）だけではありません。この上沼八幡神社（現登米市中田町字上沼）のように、公文書には皆さんの身近な神社・寺院などの昔の写真が収められていることがあります。

【 】は、当館所蔵資料の整理番号を表しています。

## ワークス

# 「村絵図・公文書を使って地域の歴史を調べてみよう！」

専門調査員 澁谷 悠子

### 地域の歴史を調べるには？

郡区町村図を中心に取上げた3回シリーズの最後は、村絵図と公文書を組み合わせた活用事例として、登米市中田町字上沼<sup>うわぬま</sup>の歴史について迫ってみます。

その前に、村絵図と公文書を使う上でおさえておきたいポイントを確認しておきましょう。村絵図を含む郡区町村図の特徴や概要は、だより31号・32号で述べた通りですが、公文書も資料的な特徴があります。当館所蔵の公文書は、仙台藩から引き継いだものもありますが、宮城県職員が作成・取得した、明治以降の公文書が大半を占めています。よって、江戸時代以前の内容が書かれたものはごく少数です。また、県内市町村の公文書はそれぞれの自治体で管理しているため、収集の対象外となっています。

公文書を使う際、特に気を付けてほしいのが、①公文書館は県庁文書の全てを収集・保存しているわけではない、②公文書の内容には偏りがある、ということです。①は、選定基準に照らし合わせて、歴史的・文化的価値がないと判断したものは廃棄するというルールがあるためです。②は、県庁業務にかかわる公文書、という性質から、県が関わった公共事業や災害復旧事業、保健・衛生、教育、商工経済などを知ることができますが、当時の社会情勢そのものや、人々の意識・思想などを直接公文書から読み取ることは難しいといえます。

上記を踏まえて、村絵図・公文書を読み解いてみたいと思います。『中田町史 改訂版』(2005年)を適宜参照しながら、上沼地区の歴史を探ってみましょう！

### 村絵図を見てみよう！

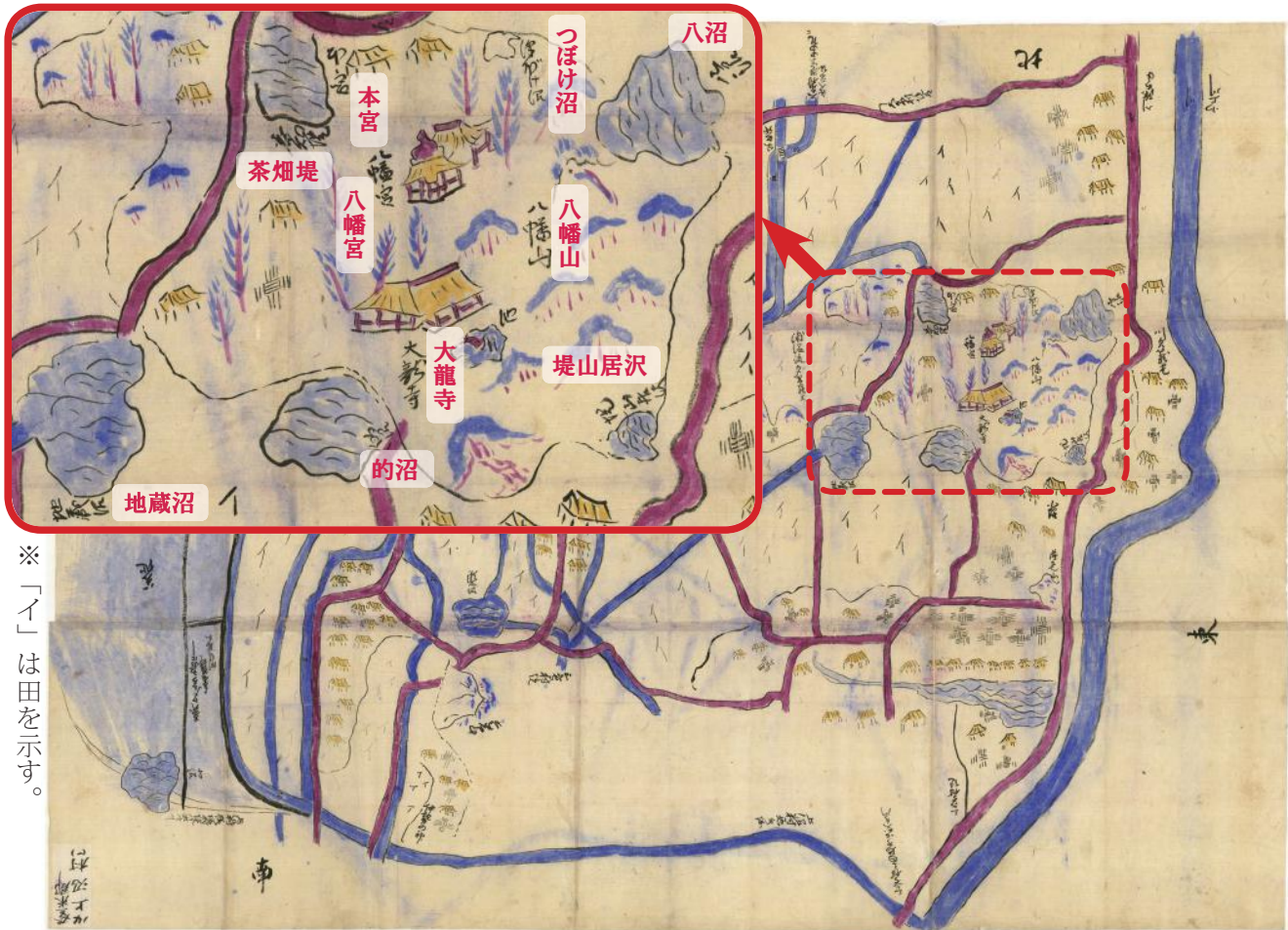
現在、登米市に所属する上沼地区は、平成17年(2005)の登米市成立前まで登米郡中田町に属していました。そして、昭和31年(1956)に中田町が成立するまでは、登米郡上沼村として周辺村落と数度の合併を繰り返しました。

当館所蔵の絵図面で、上沼村に関わるものは3点あります。図中に作成年が明記されていないものは、周辺村落名と合併年から推測し、おおむね明治20年代までに作成されたと思われます。

内容的に一番古いと思われる「登米郡上沼村絵図面」(【V-949】)を見ると、南北に流れる北上川と谷地<sup>やち</sup>の間一面に田んぼが広がっている様子が分かります。ここで目を引くのが、北上川に隣接し、周囲を沼や堤に囲まれた「八幡宮」です。現在も「八幡山」と呼ばれる小高い山のほぼ中央に上沼八幡神社があります。また、これらの沼や堤のうち、現存する「地蔵沼」や「つぼけ沼<sup>つぼきぬま</sup> (壺喜沼)」などには地蔵伝説<sup>みなものよしえ</sup>や源義家伝説があります。



昔の地図と現在の地図を見比べ、実際に現地を訪れることで、地域の歴史にさらなる発見があるかもしれません。



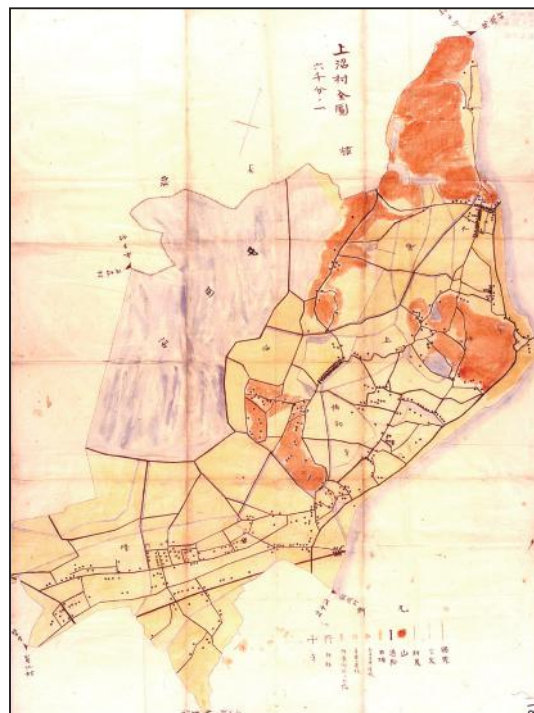
※「イ」は田を示す。

「登米郡上沼村絵図面」(【V-949】) 明治8年(1875)大泉村・弥勒寺村との合併前に作成カ



※「」は原表題ではなく、整理者が付けた表題。

「[登米郡上沼村地籍図]」(【V-918】) 明治15年(1882)6月



「上沼村全図」(【V-950】) 明治22年(1889)桜場村との合併後に作成カ



## 上沼八幡神社の今昔



上沼八幡神社の拝殿（「昭和五年 社寺  
神社 神社昇格関係」【S5-81】）



現在の上沼八幡神社の拝殿



上沼八幡神社の参道（「昭和五年 社寺  
神社 神社昇格関係」【S5-81】）

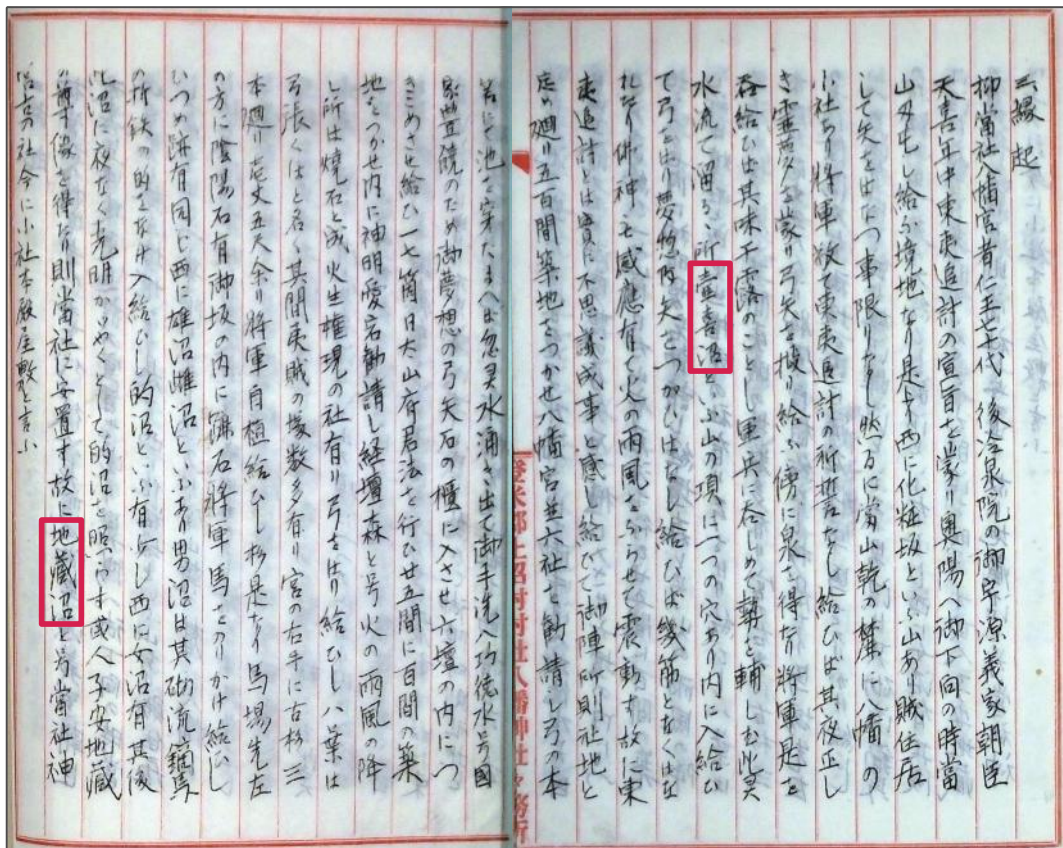


現在の上沼八幡神社の参道

公文書の強みとして、寺院や神社の建造物修復や記録台帳などが比較的多いため、寺社の由緒や建造物の規模、運営実態などを知ることができます。

上沼八幡神社は、前九年合戦（ぜんくねんかつせん 永承6年～えいしやう 康平5年＜1051～1062＞）に際して、みなもとのよりよし源頼義と子の義家がここで八幡神に戦勝祈願し、後日勝利への感謝を示すため、京都のいwashimizuはちまんぐう石清水八幡宮をかんじやう勧請したという由緒があります。昭和4年（1929）に村社から郷社への社格昇格を目指して、上沼村村長は県に關係書類（「昭和五年 社寺 神社 神社昇格関係」【S5-81】）を提出し、郷社への昇格が許可されています。そのなかに拝殿や参道を写した古写真が複数収められています。





上沼八幡神社の縁起にみる「壺喜沼」と「地藏沼」（「昭和五年 社寺 神社 神社昇格関係」【S5-81】）

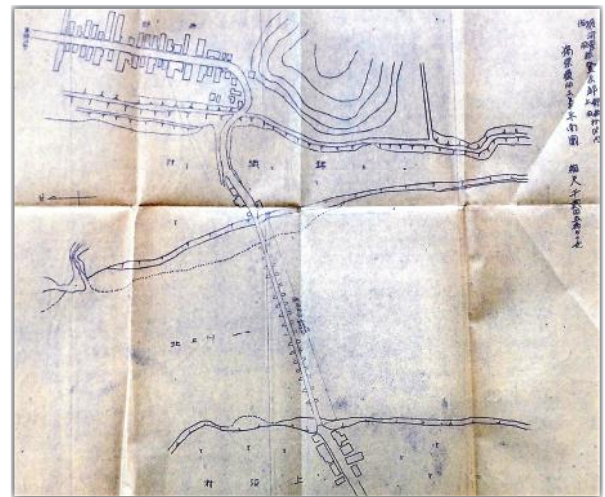
## 北上川に「船橋」があった？

かつて、大雨によって北上川はしばしば氾濫し、多くの被害をもたらしました。それもあって、架橋が進んだ明治以降も対岸に渡る手段として渡し船が重宝されていました。

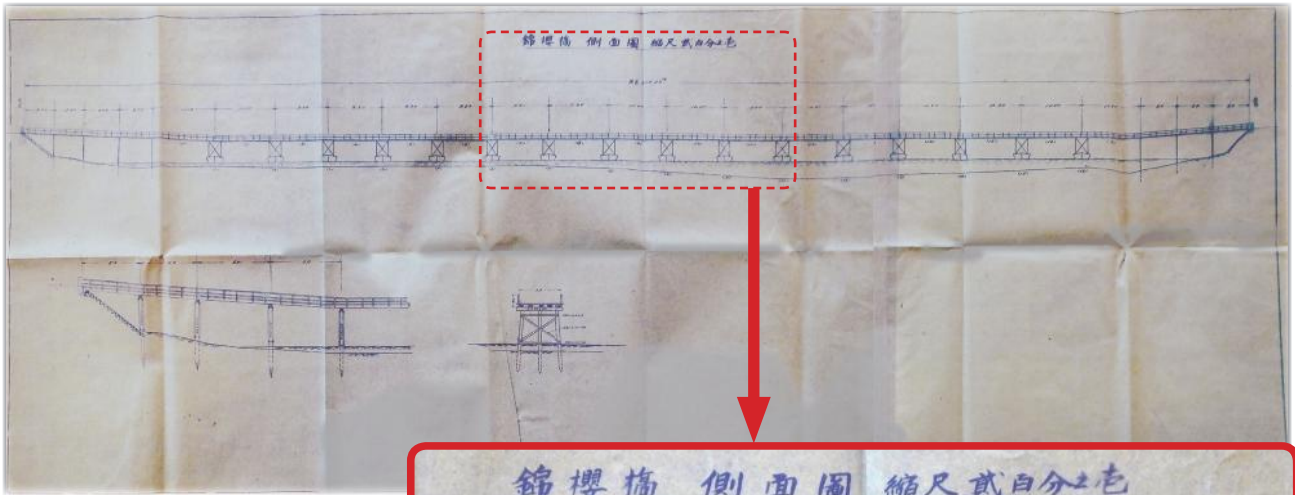
明治28年（1895）、上沼村と対岸の錦織村（現登米市東和町錦織）に錦桜橋がかけられました。これは、橋脚が固定されていない「船橋」で、船を横に並べてつなぎ、その上に板を渡して橋としたものです。川水の増減によって橋も上下するため、多少の大水では流されないという利点があります。

しかしながら、その後、錦桜橋は洪水の度に破壊・流出と復旧を繰り返しました。昭和13年（1938）9月1日の大暴風による橋脚流失時の復旧工事図面では、橋の構造がよく分かります（「昭和13年 災害応急橋梁復旧工事関係」【S13-107】）。

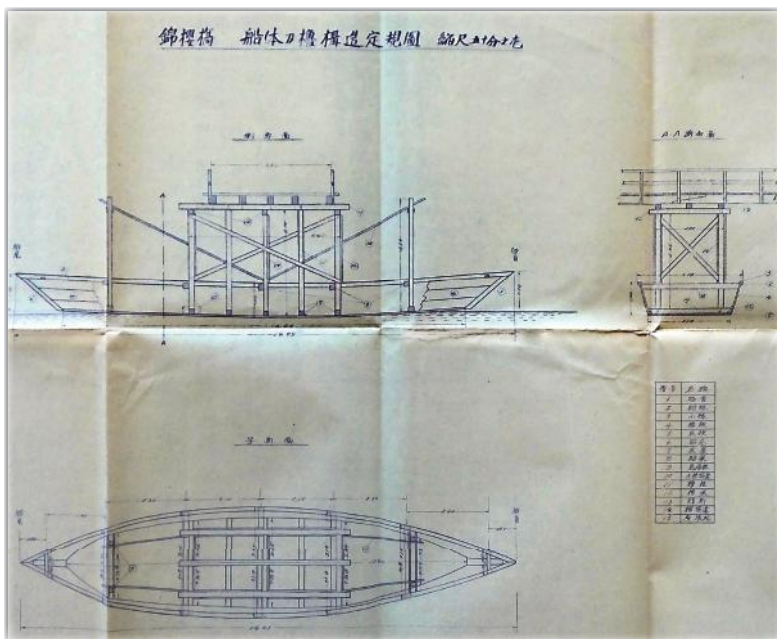
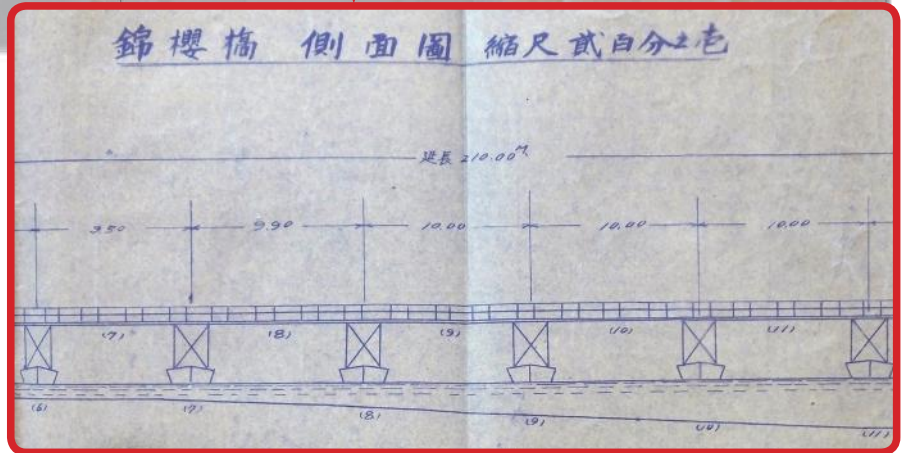
昭和19年（1944）の流出後、橋の復旧はしばらく行われず、鉄筋コンクリート製の錦桜橋が昭和31年（1956）に落成するまで渡し船の利用が続けられました。



錦桜橋の俯瞰図（「昭和13年 災害応急橋梁復旧工事関係」【S13-107】）



錦桜橋の全体図  
 (「昭和13年  
 災害応急橋梁  
 復旧工事関係」  
 【S13-107】)



錦桜橋の橋脚部分  
 (「昭和13年 災害  
 応急橋梁復旧工事  
 関係」【S13-107】)

## おわりに

村絵図と公文書に見る地域の歴史はいかがでしたでしょうか？今回取り上げた上沼地区は、この他にも小学校関係や県指定文化財関係など、紹介しきれなかった公文書があります。他の地域でも上沼地区と同じような内容の公文書があるとは限りませんが、村絵図や公文書から具体的にこんなことが分かる、という手がかりになれば幸いです。



# 公文書レポート

## 金次郎像の建設 ～宮城県の場合～

専門調査員 佐々木 優実

今年度、公文書館では企画展「二宮金次郎像の誕生」を開催しました。幕末に亡くなった二宮尊徳（以下金次郎）が、明治時代以降どのように人々に知られていき、全国の小学校に像が建てられるほど有名な人物になったのか、金次郎のイメージ「像」の形成と変化について、当館所蔵資料を中心にご紹介しました。

金次郎像が全国の小学校に普及した主な理由の1つとしては、昭和3年（1928）以降、愛知県岡崎市の石材加工業者と富山県高岡市の鋳造業者がそれぞれ金次郎像を製作して売り出したことだと指摘されています（井上章一『ノスタルジック・アイドル二宮金次郎』新宿書房、1989年）。

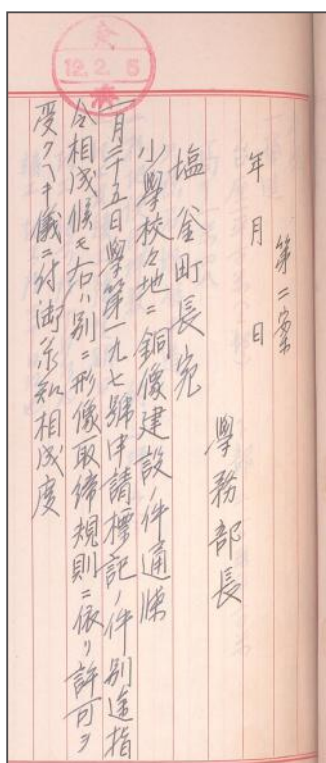
また、昭和10年（1935）は金次郎が亡くなって80年にあたり、「二宮尊徳翁八十年祭記念会」という組織が中心となって全国各地でイベントが行われました。この記念の年に、中野尋常高等小学校（戦後は仙台市立中野小学校と改称、平成28年〈2016〉に閉校）では、教職員や児童らによるイナゴ取りの勤労奉仕で得たお金で金次郎像を設置しました（『河北新報』昭和10年11月16日付）。また、詳しくは後述しますが、昭和15年（1940）に設置された像も多くあるようです（柴田力夫「県内に現存する二宮金次郎像の現状」、『近代仙台研究会』、2016年）。



五橋国民学校（現在の五橋中学校）の金次郎像（「褒賞（15、16年）」【S16-2003】）

今回は、戦前に行われた宮城県内の金次郎像の建設やその経緯について、4つの事例をご紹介します。

## 1. 塩竈町立第二尋常小学校（現在は塩竈市立第二小学校、以下第二小学校）



形像取締規則による許可申請を促す通知（「学事小学校」【S13-28】）

戦前は、学校などで人物像などを設置する際に、許可を得る必要がありました。それは形像取締規則（明治33年〈1900〉5月19日【内務省令第18号】、大正13年〈1924〉4月14日【内務省令第13号】で一部改正）によって、地方長官に像の建設を申請しなければならなかったからです。

第二小学校では、金次郎像の建設の趣旨を「尊徳精神（<sup>ほうとく</sup>報徳精神）を体得し之か実現を期せしめんとするに在り」、「要は尊徳の銅像を中心として<sup>すいじょう</sup>報徳精神の三大原則<sup>ぶんど</sup>勤労、推譲、分度を児童生活に即して実現せしめ彼等の生活を向上更正せしめんとする意図に外ならず」（「学事 小学校」【S13-28】）としています。この資料の中で出てくる「報徳精神」とは、金次郎が行った「報徳仕法」の精神を指しています。「報徳仕法」とは、金次郎が農村経済を立て直すために考案した復興法で、考え方としては、「勤労」・「分度」・「推譲」と、資料では出てきませんが「儉約」も含めた4つが柱となっています。要するに、収入とそれに見合った支出の計画を立てて生活し、収入の余った部分を将来の自分や家族のために備えること、または他人や社会のために譲ることを推奨しています。金次郎は、これらを行くことで、世の中全体の暮らしを良くすることが出来る、としています。

この頃は、金次郎の生きていた江戸時代とは生活様式が大きく変化しました。「報徳仕法」をそのまま実践することは難しいので、児童たちに「報徳精神」がより分かりやすく伝わる教育資料として、小学校での金次郎像の設置が広がったと思われます。

## 2. 大谷尋常高等小学校（現在は気仙沼市立大谷小学校、以下大谷小学校）

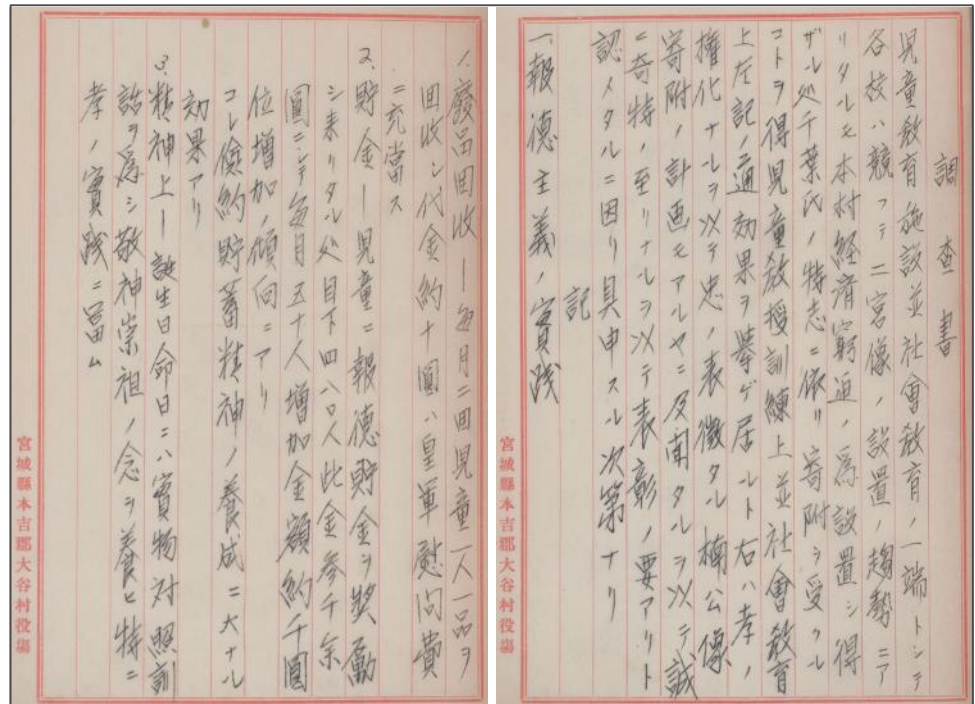


大谷小学校の金次郎像（「秘書 大東亜戦争論功行賞関係、帯勲年金記章褒賞者、死亡届台帳、寄附者褒状関係」【S21-2043】）

大谷小学校では、地域の人の寄付で、昭和15年9月16日に金次郎像が設置されました。資料では、金次郎の像を設置することによって、児童の報徳主義実践の効果があつたと報告しています（「秘書 大東亜戦争論功行賞関係、帯勲年金記章褒賞者、死亡届台帳、附者褒状関係」【S21-2043】）。儉約や貯蓄精神の養成に大きな効果があつたこと、金次郎の誕生日と命日に訓話を行い、特に孝（子どもが親に従うこと）の実践に効果があつたことなどがあげられています。



大谷小学校に金次郎像を寄付した人物への褒賞授与に関する調査書（「秘書 大東亜戦争論 功行賞関係、帯勲年金 記章褒賞者、死亡届台帳、寄附者褒状関係」【S21-2043】）



また、資料によると、大谷小学校に金次郎像を寄付した人物は、さらに楠公像（楠木正成または楠木正行）の設置計画も考えているとあります。楠公像は、大阪府などゆかりのある地域で建てられていたようです（籠谷次郎「二宮金次郎像と楠木正成・正行像：大阪府小学校における設置状況の考察」、『社会科学』58、1997年）。日中戦争の長期化に伴う物資不足などによる影響か、資料から大谷小学校での楠公像の設置は確認できませんでしたが、金次郎像以外にも子どもたちの教育資料として人物像の建設が盛んな時代だったことがわかります。

しかし、昭和16年（1941）になると「金属類回収令」が施行され、一般家庭の鍋やお寺の鐘など、あらゆる金属類が国へ供出され、金次郎の銅像も国へ差し出されていきました。『本吉町立大谷小学校百年の歩み』（大谷小学校開校百周年記念事業委員会、1973年）を見てみると、以下の記述があります。

昭和18年（1943）3月22日

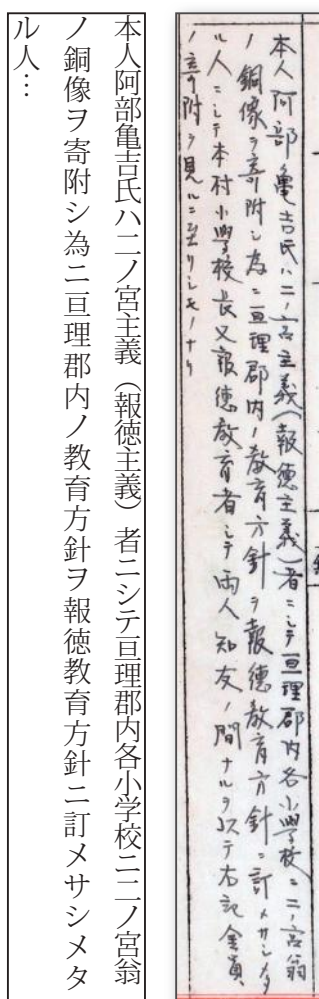
二宮像応召につき校庭において壮行式村役場まで歓送する。

昭和18年10月26日

本年三月応召の二宮銅像の代替像（千葉亀蔵再度寄贈）除幕。

応召とは、軍隊に招集されることです。金次郎像も人間の兵隊と同じように招集されて、その出発を見送られました。銅像の金次郎像がいなくなった後には、台座だけが残っていました。素材は不明ですが、代替りの像が再び寄付されています。戦前の小学校では、金次郎像がなくてはならない存在になっていたのかもしれませんが。

### 3. 篤志家による寄付と地域への影響



阿部亀吉の寄付調査書  
〔褒賞〕【S14-2003】

金次郎像の多くは、地域の婦人団体、青年団などが寄付しています。そうした中で、巨理郡内のすべての小学校に金次郎像を個人で寄付した人物がいます。のちに荒浜町長となった阿部亀吉です。財団法人阿部報公会を設立（「学事 法人設立認可」【S18-1】）するなど、教育活動に熱心な人物でした。

巨理郡では金次郎像の寄付を受けてから、報徳教育に特に力を入れています（「褒賞」【S14-2003】）。『宮城教育』459号（昭和12年〈1937〉9月）では、巨理郡の報徳教育が特集されています。どのような報徳教育をしていたのか内容を見ていくと、小学校だけでなく、青年団など村民全体で報徳主義を実践しようとしています。小学生については、金次郎の誕生日前日の7月22日と金次郎の命日前日の10月19日に、「郡連合報徳少年団大会」を開くこととしています。このように、金次郎像の寄付が郡の教育方針に大きな影響を与えていました。

さらに、昭和12年、亀吉は当時の宮城県図書館長とのやりとりで、図書館へも金次郎像を寄付することになり、庭の整備も行いました（『河北新報』昭和12年6月10日・11月4日付）。

### 4. 黒川農学校（現在は宮城県黒川高等学校、以下黒川農学校）

昭和15年は、神武天皇が即位して2600年目にあたりとされ、国全体で紀元二千六百年記念行事が行われた年です。翌16年に宮城県は、市町村や学校などの団体に、どのような記念行事・事業を行ったのかをまとめさせた紀元二千六百年奉祝記念事業調査書を提出させています（「紀元二千六百年関係」【S14-174】）。

そのなかで黒川農学校の提出書類を見ると、紀元二千六百年記念はもちろん、それと同時に開校40周年にも当たる年だったので、様々な事業が行われたようです。その中の1つに金次郎像の建設がありました。生徒父兄合わせて約180名ほどの寄付金で建設されました。

黒川農学校では、金次郎像の建設以外にも、報徳精神を広めようとする動きが見られました。『黒高70年の歩み』（宮城県黒川高等学校同窓会、1971年）によると、教職員や生徒が土保田農場という学校実習地を整備し、昭和15年5月に文部省から特殊教育施設費として800円を交付され、農場内に宿舍「報徳寮」を建設しました。宿舍に「報徳」

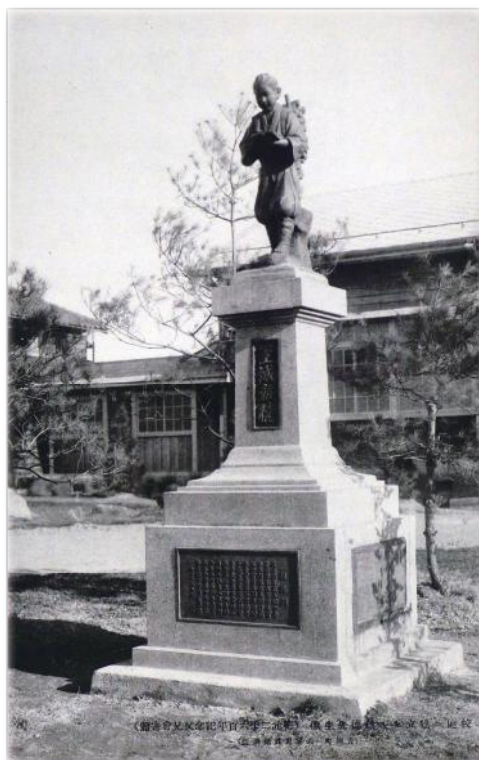


と命名することで、生徒たちの生活の中に報徳の精神を自然と溶け込ませようとしたのでしょうか。

第一表  
紀元二千六百年奉祝記念事業調査書  
事業主体 宮城県黒川郡農学校 住所 宮城県黒川郡吉岡町

事業ノ名稱	経費	財源	摘要
1. 御影堂安殿建設	三〇〇〇円	寄附	本校卒業生及郡内有志(約五百名)
2. 二宮尊徳像建設	五〇〇〇円	公	生徒父兄寄附(約百十名)
3. 校歌制定	五〇〇円	公	小倉博氏作曲 文部省認可済
4. 医療室設置並に衛生婦科	二〇〇〇円	公	陸軍少佐山本武彦氏作曲 文部省認可済
5. 校門新築	三〇〇〇円	公	清生婦科毎週三回本校トナホム月例検査 ツレクソン 森元次等 治療実施中
6. 昭和十五年以前			本校卒業生 只本校大民個人寄附
7. 昭和十五年以後			昭和十六年 治療用具充実に期し養護
8. 画々進々々居レリ			啓事行々土月十四日落成式行ハ 方面三段ノ努力ヲナシテ

紀元二千六百年奉祝記念事業調査書  
〔「紀元二千六百年関係」【S14-174】〕



昭和15年に設置された金次郎像  
〔「紀元二千六百年関係」【S14-174】〕



実習地に建てられた報徳寮  
〔「紀元二千六百年関係」【S14-174】〕

# 知っ得！情報

## ◆ 閲覧証の有効期限が5年間になりました ◆

平成28年(2016)6月1日から、当館閲覧証の有効期限が1年間から5年間に延長となりました。

現在、有効期限内の閲覧証をお持ちの方は、閲覧証に記載された期限から4年延長した閲覧証を再発行いたします。

例) 有効期限：平成29年5月31日→平成33年5月30日

## ◆ デジタルデータの頒布 ◆

絵図面のデジタル画像データの頒布を行っております。

CD-R焼付のみでの頒布となります(1枚につき5点まで 1枚50円)。

平成29年(2017)2月14日から利用可能なデータが46件分増えて、1,052件になりました。ふるってご活用下さい。



「陸前国栗原郡真坂村地籍図」(【V-707】) 明治15年(1882)5月

宮城県公文書館だより 第33号

平成29年(2017)3月1日 発行

編集・発行 宮城県公文書館

〒981-3205 宮城県仙台市泉区紫山1-1-1

電話 022(341)3231 Fax 022(341)3233

e-mail koubun@pref.miyagi.jp

<http://www.pref.miyagi.jp/soshiki/koubun/>

